東京都美術館開館100周年記念

この場所の風景

Views of This Place

100th Anniversary of the Tokyo Metropolitan Art Museum

Omuta, Ueno, Buenos Aires

大牟田・上野・ブエノスアイレス

江上茂雄《いとこの家の庭》1931年頃　個人蔵

2026年7月23日［木］—10月7日［水］

東京都美術館 ギャラリーA・B・C

休室日：月曜日 *ただし、8月10日［月］、9月21日［月・祝］は開室

開室時間：9時30分～17時30分、金曜日は20時まで（入室は閉室の30分前まで）

主催：東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

［関連事業］ ※終了時刻は予定。詳細・申込方法は展覧会公式サイトをご確認ください。

【トーク・シリーズ】

会場：東京都美術館　講堂

定員：200名　事前申込制・先着順 ※定員に達し次第受付終了

（8月6日［木］12時～、専用申込フォームにて受付開始予定）

参加費無料　※「この場所の風景」展当日チケットが必要

情報保障あり

①江上茂雄を語る

ゲスト：江上計太（美術家、江上茂雄 次男）× 尾中俊介（本展グラフィック・デザイン担当）

8月29日［土］14時～16時

本展（第二部）出品作家の江上茂雄の次男として福岡・大牟田に生まれ、東京藝術大学美術学部卒業後、現在は福岡を拠点に活動する美術家・江上計太氏と、『江上茂雄作品集』（2010）刊行にたずさわったデザイナーの尾中俊介氏に、江上茂雄についてお話いただきます。

②名もなき誰かの足跡をたどる

ゲスト：清水チナツ（カルチュラル・ワーカー）× 松本篤（AHA! 世話人）

9月5日［土］14時～16時

在野の民話採訪者・小野和子氏の書籍編集やメキシコ民衆版画のリサーチ等に取り組んできた清水チナツ氏と、本展（第三部）に《百日草の庭》リサーチ・プロジェクトで参加したAHA!の松本篤氏に、自身の活動がまなざしてきたものについてお話いただきます。

③戦中・戦後の女性の美術家たちを追いかける

ゲスト：吉良智子（近代日本美術史・ジェンダー史研究者）× 正路佐知子（国立国際美術館 主任研究員）

9月26日［土］14時～16時

本展（第一部）出品の女流美術家奉公隊《大東亜戦皇國婦女皆働之図》、戦後福岡の前衛美術家・田部光子（1933-2024）に関する調査・研究に、それぞれ継続的に取り組んできた吉良智子氏と正路佐知子氏に、戦中・戦後期の女性の美術家たちを追う中で見えてきたことについてお話いただきます。

【鑑賞プログラム】

①キッズ+U18デー 無料

18歳以下の方とその保護者限定の無料開室日です。小学3年生以下は保護者同伴必須。

8月24日［月］10時～15時（入室は14時30分まで）

事前申込不要

②ダイアローグ・ナイト

東京都美術館で活動するアート・コミュニケータ（とびラー）と一緒に対話をしながら展示室をめぐります。

9月11日［金］／9月18日［金］18時45分～19時15分

定員各回16名　事前申込制・先着順 ※定員に達し次第受付終了

（8月6日［木］12時～、専用申込フォームにて受付開始予定）

参加費無料　※「この場所の風景」展当日チケットが必要

情報保障あり

③担当学芸員と一緒に作品を鑑賞する会

本展担当学芸員と一緒に対話をしながら展示作品を鑑賞します。

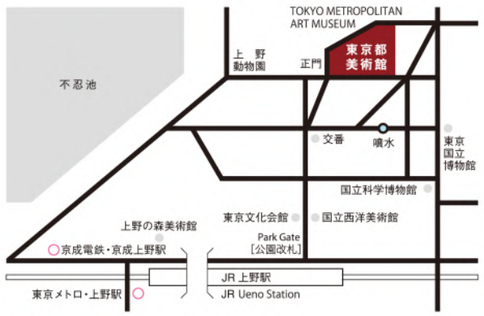
9月9日［水］／9月16日［水］11時～12時

定員：各回10名　事前申込制・先着順 ※定員に達し次第受付終了

（8月6日［木］12時～、専用申込フォームにて受付開始予定）

参加費無料　※「この場所の風景」展当日チケットが必要

情報保障あり



［交通のご案内］

○JR上野駅「公園改札」より徒歩7分

○東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分

○京成電鉄京成上野駅より徒歩10分

※駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮ください

東京都美術館

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36

03-3823-6921（代表）

design: Shunsuke Onaka (Calamari Inc.)

［観覧料］一般 1,200円 ／ 65歳以上 1,000円 ／ 学生・18歳以下無料

同時期開催の特別展「大英博物館日本美術コレクション　百花繚乱～海を越えた江戸絵画」（東京都美術館）のチケット提示にて一般・65歳以上の方は「100円」（東京都美術館開館100周年記念料金）で観覧いただけます。

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者（1名まで）は無料

※18歳以下の方、大学生、高校生、専門学校生、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください

※都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料（事前申請が必要）

詳細・最新情報・その他の割引情報は公式サイトをご確認ください。

https://www.tobikan.jp/viewsofthisplace/

東京都美術館開館１００周年記念

この場所の風景

―上野・大牟田・ブエノスアイレス

100th Anniversary of the Tokyo Metropolitan Art Museum

Views of This Place

Ueno, Omuta, and Buenos Aires

藤岡鉄太郎（ふじおか かねたろう）《百日草の庭》1926年　東京都現代美術館蔵

東京都美術館は、今から100年前の1926年、日本初の公立美術館として東京・上野公園内に開かれました（※開館時の名称は「東京府美術館」）。本展は、この「100年」という時間を、異なる3つの場所でそれぞれに続けられた創作活動をとおして、展望していきます。

第一部「上野―東京都美術館の100年」では、上野に誕生した美術館のはじまりからこれまでを、そこで開催されたさまざまな展覧会やその周辺に広がる風景から振り返ります。第二部「大牟田―江上茂雄の100年」では、九州の炭鉱の町・大牟田そして荒尾で生涯をすごし、その場所の風景を描き続けた江上茂雄（1912-2014）の画業をみつめます。第三部「ブエノスアイレス―《百日草の庭》をめぐる100年」では、当館が開館した1926年に描かれ、最初の収蔵品となった絵画作品《百日草の庭》をめぐって、戦前にアルゼンチンに渡ったある日本人移民とその家族たちの「絵」と「花」の物語をたどります。

近代以降、あまたの博覧会、展覧会の開催地となり、さまざまな文化的施設がつくられた上野という場所は、日本近現代美術史の中心地とみなされてきました。本展では、多種多様なひとびとが集った上野そして東京都美術館の100年と、そこから遠くはなれた土地で、個人の膨大な熱量によって繰り広げられた創作の営みとを並行してたどることで、「中央／周縁」といった枠組みをのりこえ、表現することの根源的な意味を浮かび上がらせていきます。

ひとびとの「より良い生活」を支える場所として、美術館はなにができるのか。3つの場所の風景と向き合いながら、次の100年について考えていきます。

A 100 years ago in 1926, the Tokyo Metropolitan Art Museum (then known as "Tokyo Prefectural Art Museum") opened in Ueno Park as Japan's first public art museum. This exhibition will look comprehensively at creative activities undertaken in three different places during those 100 years. Part One, "Ueno—The Tokyo Metropolitan Art Museum's 100 years," surveys the decades from the Museum's start in Ueno to the present with a focus on the wide-ranging exhibitions it hosted and diverse scenes that unfolded in its park surroundings. Part Two, "Omuta—EGAMI Shigeo's 100 years," examines the painting career of Egami Shigeo (1912-2014), who lived his entire life in one place—the Kyushu coal mining towns Omuta and Arao—ceaselessly painting its landscapes. Part Three, "Buenos Aires—*Garden Full of Zinnias*'s 100 years," looks at the newly founded museum's first acquisition, painted in 1926, *Garden Full of Zinnias*, and follows the story of a man who immigrated to Argentina from Japan and he and his family members' lives with "paintings" and "flowers."

Ueno, which has been a stage for expositions and exhibitions and a home to cultural facilities since the modern era, is regarded as Japan's hub for modern and contemporary art. This exhibition, by tracing the 100 years of the Tokyo Metropolitan Art Museum and Ueno as a center where countless people have gathered, and in parallel, the passionate creative endeavors of individuals in distant places, will transcend the framework of "center-periphery" to bring the essential meaning of art expression into relief.

What can an art museum do as a place that supports people in their desire to "live a better life"? While contemplating views of three places, we want to ponder our next 100 years.

女流美術家奉公隊《大東亜戦皇國婦女皆働之図　秋冬の部》1944年　靖國神社遊就館蔵

第一部　上野―東京都美術館の100年

Part I: Ueno—The Tokyo Metropolitan Art Museum's 100 years

絵画、版画、写真、東京都美術館アーカイブズ資料などのさまざまな記録により、東京都（府）美術館の誕生から戦中・戦後の状況、1975年の新館開館以降の活動を、同時期の上野の風景とともに概観します。

Through various paintings, prints, photos, and Museum archive materials, this exhibition will overview the Tokyo Metropolitan Art Museum's activities from its founding as the Tokyo Prefectural Art Museum to conditions of war and post-war reconstruction, and beyond to its reopening in a new building in 1975, along with displays of scenes of Ueno in the same periods.

逸見享《府美術館（『新東京百景』より）》
1931年　東京都現代美術館蔵

児玉房子《上野公園（「東京1970-1977」より）》
1977年　東京都写真美術館蔵

奈良原一高《不忍池（「ポケット東京」より）》
1993-1996年　東京都写真美術館蔵

江上茂雄『私の鎮魂花譜』より　制作年不詳　鉛筆、水彩　個人蔵

江上茂雄《海のくもり日II》1960年頃　クレヨン　個人蔵

第二部　大牟田―江上茂雄の100年

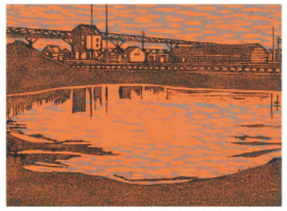
Part II: Omuta—EGAMI Shigeo's 100 years

福岡・大牟田に暮らし、独学・独力で描くことを貫いた江上茂雄（1912-2014）。鉛筆、水彩、クレパス・クレヨンなどの身近な画材を用いて、自身のそばにある風景と向き合い続けました。東京では初めての展示となる木版画や実験的な抽象画、染め紙といった多彩な取り組みを含む約400点により、その創作の軌跡をたどります。

Residing in Omuta, Fukuoka, Egami Shigeo (1912-2014) pursued painting with long dedication, entirely self-taught and self-reliant. Using pencil, watercolor, crayon, oil paste, and other commonly available tools, he depicted the landscapes around him. Through a varied selection of 400 works that include Egami's efforts in other mediums appearing in Tokyo for the first time, such as wood-block prints, experimental abstract paintings, and paper dyeing, the exhibition will trace the unfolding path of his creative career.

江上茂雄　制作年不詳　水彩　個人蔵

江上茂雄　1988年7月　水彩　個人蔵

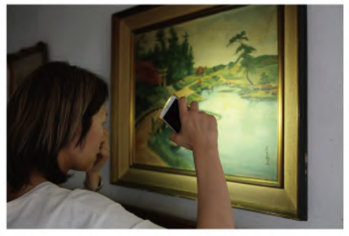


江上茂雄『大牟田五十景』より《貯炭場夕焼》
1972年発行　木版　個人蔵

江上茂雄（えがみ しげお）

1912年福岡県山門郡瀬高町（現在のみやま市）に生まれ、間もなく大牟田市に転居。高等小学校卒業後、三井三池鉱業所建築課に入社。60歳で定年退職後、大牟田井筒屋で第一回個展開催。以後大牟田市ほかで計10回の個展を開催。2013年に田川市美術館、大牟田市立三池カルタ・歴史資料館、福岡県立美術館で江上茂雄展開催。2014年没。2018年に武蔵野市立吉祥寺美術館で「江上茂雄：風景日記」展開催。

《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト資料：
アルゼンチンの百合栽培施設内で撮影された
藤岡鉄太郎（てつたろう）と妹・房江の写真
1930年代頃　個人蔵



《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト　撮影：松本篤（AHA!）

第三部　ブエノスアイレス―《百日草の庭》をめぐる100年

Part III: Buenos Aires—*Garden Full of Zinnias*'s 100 years

歴史に埋もれた個人の営みをすくい上げてきたAHA!が、東京都（府）美術館の所蔵品第一号とされる絵画作品《百日草の庭》（1926年制作）を起点に、詳細不明であったこの絵の作者・「藤岡鉄太郎（かねたろう）」に関する調査を開始。そこで出会った同姓同名（同字異音）の藤岡鉄太郎（てつたろう）（1901-1982）に注目し、1927年に日本から地球のほぼ真裏に位置するアルゼンチン・ブエノスアイレスに渡り、造園・花卉産業に従事したこの人物のあとを追いかけます。これと並行して公募した花の写真を用いて、2027年の日めくりカレンダーを制作します。

AHA! [Archive for Human Activities] digs up the lives of ordinary people buried in history. Taking their start from the painting *Garden Full of Zinnias* (1926)—a work thought be the Tokyo Metropolitan (Prefectural) Art Museum's first collected work, they embarked on an investigation of the painting's artist, Fujioka Kanetaro, about whom no details were known at the time. Directing their attention to a Fujioka Tetsutaro (1901-1982) having the same name expressed in the same kanji, they traced his movement from Japan to Buenos Aires in 1927 on the direct opposite side of the earth, where he worked in landscaping and floristry. In parallel, they will use photos of flowers solicited from the public to create a daily calendar for 2027.

《百日草の庭》リサーチ・プロジェクト
撮影：松本篤（AHA!）

AHA!［Archive for Human Activities／人類の営みのためのアーカイブ］

NPO法人remoを母体として2005年に始動。記録集『はな子のいる風景』（2017）、ウェブサイト『世田谷クロニクル1936-83』（2019）、展覧会『わたしは思い出す』（2021）、など、市井の人びとの記録に着目したさまざまなメディアづくりを企画制作。

Uni-Voice